

### 3. がん医療の進歩・知識

#### 医療の進歩の実感

以下の文章を読んで、その内容がどの程度当てはまるかを考え、お答えください。

問 40-1. 一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩した。

回答選択肢：{とてもそう思う；ある程度そう思う；ややそう思う；どちらともいえない；そう思わない}

	対象(分母)	算出法 (分子)
問 40-1	回答者全体	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合
結果	71.7%	

#### <成人患者体験調査との比較>

成人調査において、同一の問いに対する結果は75.6%であった。

#### <がん種別の結果>

「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で79.0%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で64.7%、【脳腫瘍患者】で62.5%であった。【造血器腫瘍患者】は【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】および【脳腫瘍患者】よりも統計的有意に高かった(各々 $P<0.01$ ,  $P<0.01$ )。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】では統計的有意差はなかった( $P=0.65$ )。

がん種 医療の進歩	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
とてもそう思う	325 (31.8%)	192 (40.3%)	98 (26.2%)	26 (20.3%)
ある程度そう思う	408 (39.9%)	185 (38.8%)	144 (38.5%)	54 (42.2%)
ややそう思う	163 (15.9%)	62 (13.0%)	69 (18.4%)	28 (21.9%)
どちらともいえない	114 (11.2%)	36 (7.5%)	55 (14.7%)	19 (14.8%)
そう思わない	12 (1.2%)	2 (0.4%)	8 (2.1%)	1 (0.8%)
合計	1022 (100%)	477 (100%)	374 (100%)	128 (100%)

問 40-1 への無回答(7名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の43名を含む。

#### <留意点>

特記事項なし。

## がんに対する偏見

以下の文章を読んで、その内容がどの程度当てはまるかを考え、お答えください。

問 40-3. 周囲の人が、がんに対する偏見をもっている。

回答選択肢：{とてもそう思う；ある程度そう思う；ややそう思う；どちらともいえない；そう思わない}

	対象(分母)	算出法 (分子)
問 40-3	回答者全体	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合
結果	24.5%	

### <成人患者体験調査との比較>

成人調査において、同一の問いに対する結果は 5.3%であった。ただし成人調査では、回答者が患者本人である場合のみ回答する設問となっていた。

### <がん種別の結果>

「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 24.7%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 24.9%、【脳腫瘍患者】で 23.4%であった。3群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった (P=0.94)。

がん種 周囲の偏見	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
とてもそう思う	92 (9.0%)	36 (7.5%)	40 (10.7%)	11 (8.6%)
ある程度そう思う	159 (15.5%)	82 (17.2%)	53 (14.2%)	19 (14.8%)
ややそう思う	262 (25.6%)	134 (28.1%)	87 (23.3%)	35 (27.3%)
どちらともいえない	320 (31.3%)	146 (30.6%)	120 (32.1%)	41 (32.0%)
そう思わない	190 (18.6%)	79 (16.6%)	74 (19.8%)	22 (17.2%)
合計	1023 (100%)	477 (100%)	374 (100%)	128 (100%)

問 40-3 への無回答(6名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 44 名を含む。

### <留意点>

本調査は家族等の回答であるため、患者自身が感じたものとは違う可能性がある。

## 臨床試験の認知度

問 42. 臨床試験<sup>〔注〕</sup>とは何かを知っていますか。

回答選択肢： {よく知っている；ある程度知っている；聞いたことはあるが、あまり知らない；聞いたことがない}

〔注〕臨床試験：薬や医療用具などの有効性や安全性などを検討するために行われる人を対象とした研究のこと

対象(分母)		算出法 (分子)
問 42	回答者全体	「よく知っている、ある程度知っている」と回答した人の割合
結果	<b>67.5%</b>	

### <成人患者体験調査との比較>

成人調査において、同一の問いに対する結果は 39.7%であった。

### <がん種別の結果>

「よく知っている、ある程度知っている」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 68.8%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 64.9%、【脳腫瘍患者】で 72.4%であった。3群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった (P=0.23)。

がん種	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
よく知っている	144 (14.1%)	62 (12.9%)	54 (14.6%)	22 (17.3%)
ある程度知っている	545 (53.4%)	268 (55.8%)	186 (50.3%)	70 (55.1%)
聞いたことはあるが、 あまり知らない	320 (31.4%)	148 (30.8%)	125 (33.8%)	32 (25.2%)
聞いたことがない	11 (1.1%)	2 (0.4%)	5 (1.4%)	3 (2.4%)
合計	1020 (100%)	480 (100%)	370 (100%)	127 (100%)

問 42 への無回答(9名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 43 名を含む。

### <留意点>

特記事項なし。

## ゲノム医療の認知度

問 43. ゲノム情報を活用したがん医療<sup>〔注〕</sup>について、知っていますか。

回答選択肢： {よく知っている；ある程度知っている；聞いたことはあるが、あまり知らない；聞いたことがない}

〔注〕ゲノム情報を活用したがん医療：がん細胞の遺伝子の異常を調べ、それに基づく治療を行うこと

対象(分母)		算出法 (分子)
問 43	回答者全体	「よく知っている、ある程度知っている」と回答した人の割合
結果	<b>29.3%</b>	

### <成人患者体験調査との比較>

成人調査において、同一の問いに対する結果は 17.0%であった。

### <がん種別の結果>

「よく知っている、ある程度知っている」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 30.0%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 27.0%、【脳腫瘍患者】で 34.4%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった (P=0.26)。

がん種 ゲノム医療	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
よく知っている	36 (3.5%)	16 (3.3%)	16 (4.3%)	4 (3.1%)
ある程度知っている	263 (25.7%)	128 (26.7%)	84 (22.6%)	40 (31.3%)
聞いたことはあるが、 あまり知らない	517 (50.6%)	244 (50.8%)	190 (51.2%)	60 (46.9%)
聞いたことがない	206 (20.2%)	92 (19.2%)	81 (21.8%)	24 (18.8%)
合計	1022 (100%)	480 (100%)	371 (100%)	128 (100%)

問 43 への無回答(7 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 43 名を含む。

### <留意点>

令和元年 6 月にがんゲノム医療の遺伝子パネル検査が保険適用となったが、本調査はそれ以降に、成人調査はそれ以前(平成 30 年)に実施されている。

## 長期フォローアップの認知度

問 44. 長期フォローアップ<sup>〔注〕</sup>について、知っていますか。

回答選択肢： {よく知っている；ある程度知っている；聞いたことはあるが、あまり知らない；聞いたことがない}

〔注〕長期フォローアップ：治療終了後の晩期合併症の早期発見や予防を目的とした医療のこと

	対象(分母)	算出法 (分子)
問 44	回答者全体	「よく知っている、ある程度知っている」と回答した人の割合
結果	<b>52.9%</b>	

### <成人患者体験調査との比較>

小児調査で初めて設定された問いである。

### <がん種別の結果>

「よく知っている、ある程度知っている」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 56.5%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 48.5%、【脳腫瘍患者】で 50.8%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった (P=0.06)。

がん種 長期 フォローアップ	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
よく知っている	161 (15.8%)	86 (17.9%)	53 (14.3%)	17 (13.3%)
ある程度知っている	380 (37.2%)	185 (38.5%)	127 (34.2%)	48 (37.5%)
聞いたことはあるが、 あまり知らない	267 (26.1%)	129 (26.9%)	101 (27.2%)	30 (23.4%)
聞いたことがない	214 (20.9%)	80 (16.7%)	90 (24.3%)	33 (25.8%)
合計	1022 (100%)	480 (100%)	371 (100%)	128 (100%)

問 44 への無回答(7名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 43 名を含む。

### <留意点>

半数以上の回答者が長期フォローアップを知っていると回答しているが、長期フォローアップの実態や患者、患者家族の体験については別途調査が必要である。

## 本人への調査

問 45. 今回は代諾者<sup>〔注〕</sup>の方に回答をお願いしましたが、今後、病名について告知され十分に理解できると想定される年齢の場合、このような調査を、小児がん患者さん自身に回答してもらおう形で行うことについて、ご意見をお聞かせください。

回答選択肢： {本人に調査した方がよい；調査しても問題ない；調査しない方がよい；わからない}

〔注〕代諾者：患者さんの親権者、後見人その他これらに準ずる者のこと

	対象(分母)	算出法 (分子)
問 45	回答者全体	「本人に調査した方がよい、調査しても問題ない」と回答した人の割合
結果	<b>66.5%</b>	

回答者のうち、「本人に調査した方がよい」は14.6%であった。

### <成人患者体験調査との比較>

小児調査で初めて設定された問いである。

### <がん種別の結果>

「本人に調査した方がよい、調査しても問題ない」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で68.6%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で66.8%、【脳腫瘍患者】で58.7%であった。3群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった (P=0.11)。

がん種 今後の調査	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
本人に調査した方がよい	148 (14.6%)	70 (14.7%)	50 (13.5%)	20 (15.9%)
調査しても問題ない	528 (52.0%)	257 (53.9%)	198 (53.4%)	54 (42.9%)
調査しない方がよい	93 (9.2%)	43 (9.0%)	31 (8.4%)	14 (11.1%)
わからない	247 (24.3%)	107 (22.4%)	92 (24.8%)	38 (30.2%)
合計	1016 (100%)	477 (100%)	371 (100%)	126 (100%)

問 45 への無回答 (13 名) は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 42 名を含む。

### <留意点>

特記事項なし。